

鳥羽とサンタバーバラとの交流の歴史

1966年(昭和41年)3月24日

アメリカ合衆国カリフォルニア州のサンタバーバラと文化、産業の交流をはかり、親善と友情を深めるため、姉妹都市の縁を結ぶことになりました。

かねてから藤田観光の小川専務を仲立ちとして両市が話し合いを進めていたが、3月6日にサンタバーバラ市議会に続いて、鳥羽市議会も第1回定例議会の最終日に「姉妹提携」を議決しました。



1966年(昭和41年)6月10日～23日

中村幸吉鳥羽市長を団長に24名がサンタバーバラ市を公式訪問し、W. DON. マックギブレイ市長と6月14日に姉妹都市を調印。この時の費用はひとり約45万円ほどかかり、行程も10日に羽田空港からハワイ経由ロサンゼルスへ到着。11日はロサンゼルス市内観光、12日ラスベガス、13日にロサンゼルスに戻り、14日にサンタバーバラ市を公式訪問。この市議会にて公式挨拶を中村市長が行なった。その後晩餐会、15日は市内視察やパーティ等が行なわれた。16日にバスでロサンゼルスへ向かい、サンフランシスコ泊、17日は市内視察。18日は特別バスにてヨセミテ公園視察。19日ヨセミテからサンフランシスコ経由ハワイに立ち寄った。20日、21日とハワイ観光をして22日ハワイ出発羽田に23日帰国いたしました。

この時のメンバーは中村幸吉市長を筆頭に芝谷常吉氏(三重交通社長)、翠様(同夫人)川口四郎吉氏(志摩観光ホテル社長)藤原実氏(県観光開発専務)竹田元氏(伊勢湾フェリー社長)釜谷俊郎氏(医師)寺本藤助氏(歯科医師)寺田光郎氏(戸田家旅館社長)宮濱嘉衛氏(中幸鉄工所社長)井本米蔵氏(前小学校校長)加藤龍太郎氏(御木本真珠島取締役)萩原孝之氏(御木本真珠常務)鶴田鑄四郎氏(鶴田石材取締役)東川清二氏(東川材木代表取締役)柴山一雄氏(芝山石油代表社員)中村幸昭氏(鳥羽水族館社長)上田芳三氏(御木本真珠神戸支店長)小川平八氏(鳥羽国際ホテル総務部長)吉川清右エ門氏(吉川商店主)大岩武雄氏(大岩商店主)小川邦雄氏(藤田観光専務)寛子様(同夫人)小泉善夫氏(藤田トラベルサービス)の交通・観光関係の方や、市民の中から希望者を募り自費にて参加しました。

出発前の6月2日には鳥羽小涌園にて、中野助役、山下市議会議員、小田嶋商工会議所会頭が発起人となり壮行会が開催され、市民有志約150名が集まり、その旅路の無事と親善の成果を祈りました。

1966年(昭和41年)10月4日～6日

姉妹都市を結んだサンタバーバラ市からW D・マックギブレイ市長夫妻と姉妹都市委員・市民有志の皆さん27名が鳥羽を訪問いたしました。

10月4日は熱海から新幹線・近鉄と乗り継ぎ、松阪の和田金にてすき焼きの昼食をとった後、バスにて伊勢市内宮へ到着。中村鳥羽市長らが宇治橋前で出迎え内宮参拝ののち、スカイラインを経由して鳥羽に入り、安楽島の鳥羽小涌園にチェックインをいたしました。その夜歓迎会は鳥羽国際ホテルにて鳥羽市長主催で行われました。

10月5日には鳥羽ライオンズクラブ、ロー

タリークラブの朝食会の後、鳥羽湾めぐり、御木本真珠島などを見学、その後鳥羽市役所を正式訪問いたしました。議会会場にて両市長のメッセージ・記念品交換などが行なわれました。会場には日米両国旗が飾られ、議員席にサンタバーバラ市側、理事者席に鳥羽市長、市議会議員が着席。中野助役の司会で交歓会が開かれました。まず中村市長、山下議長の歓迎の挨拶、その後、マックギルブレイ市長が登壇、ユーモアを交えて歓迎を感謝、共にこれを機会にいっそうに友愛を深めて、両市の繁栄と両市民の幸せを願いました。記



念品はサンタバーバラ市からレッドツリーという木に両市名の彫った大きな額や航空写真など、鳥羽市からは両市名を衿に入れた紺色の陣羽織を全員に、市名入りのれんが色の大提灯2個をそれぞれに贈りました。それから大会議室に会場を移し、裏千家・加藤智子さんの指導で和服姿の女子職員達によって開かれたお茶会に出席。十数名のお嬢さんたちの着物姿にまず驚き、神妙な顔で日本の伝統を味わってみえました。

昼食は賢島の志摩観光ホテルで先にサンタバーバラを訪問した親善使節団の人々が主催した歓迎会で取った後、御木本真珠所有の真珠養殖場の多徳島を視察。わずかな滞在でしたが、毎日秋晴れの天気恵まれ、美しい景色や輝く真珠に「ワンドフル」の連発。特にマックギルブレイ市長は「お世辞ではない」笑いながら「サンタバーバラに住まないとし



たら私は鳥羽に住むだろう」とすっかり気に入った様でした。

その夜は鳥羽小涌園にて市民歓迎会があり、それに出席をしました。この時は岡野忠子さんら13名の琴・尺八合奏や和扇会志賀山伊都美さん門下のお嬢さん方の鳥羽音頭等の踊りがあり、異国の人々の旅情を心から慰めました。

10月6日に鳥羽を出発後皆さんは京都にむかいました。

1967年(昭和42年)6月広報とば記載分

第2回目の親善使節団は塩田良平氏(伊勢湾フェリー)を団長とする一行8人で、6月11日羽田から空路出発。滞在中は市民の家庭を訪問し、サンタバーバラの市民生活を体験し、友好を深め22日に帰鳥いたしました。(昭和43年とも思われる)

1967年(昭和42年)10月13日～16日

サンタバーバラ市の収入役スタンレー・バートレット氏を団長に14人(記載が19名の場合もある)が鳥羽市を訪問。

1968年(昭和43年)8月3日～21日

中学生2人が初めてサンタバーバラ市を訪問。これは広報とばで中学校三年生2名を募集いたしましたところ、29名の応募があり、選考の結果加茂中学校の片岡弘也君と鳥羽中学校の加藤町子さんが選ばれました。費用は市費にて、8月2日に鳥羽を乗用車で出発し、近鉄特急・新幹線を乗り継ぎ、8月3日の夜羽田から出発いたしました。初めてのことで谷本鳥羽市長も中学生の両親と羽田まで

送りに行きました。

予定より1時間半遅れでロサンゼルスに到着。其処にはホームステイ先のブーゼリー夫妻と日系二世の上坂さんの奥さんがお迎えに来てくださり、サンタバーバラに2週間の滞在をいたし、8月21日鳥羽に帰ってきました。滞在中は谷本鳥羽市長のメッセージをマックギルブレイサンタバーバラ市長に届けました。その後サンタバーバラの新聞社を訪れました。6日には上坂さんの案内で映画の都・ハリウッドに行き世界最大の映画企業を見学し、アメリカの規模の大きさに目を見張りました。

7日には夜8時頃カトリック教会で大掛かりな夏祭りの前夜祭を見学、前日の新聞の記事に載ったので二人はにぎやかに紹介されました。8日には目抜き通りで夏祭りの行列を見学。13日はロサンゼルスに行きディズニールランド見学、その夜はブーゼリーさんの知人のお宅に宿泊いたしました。17日は上坂さんの車で青森出身の三苦芳江さん宅を訪問。その日にはテレビ局も見学に行きました。

18日にはカリフォルニア州在住の日本人留学生の皆さんの好意でレストランでさよならパーティをしていただきました。

21日には羽田に迎えに行った谷本市長と中学生の家族と共に二人は鳥羽市役所に到着。玄関で学友や学校関係、市職員の歓迎に応えて片岡君が挨拶。その後在留邦人から贈られた花の種を加茂・鳥羽両中学校に持ち帰りました。

1968年(昭和43年)10月8日～11日

今回先に鳥羽市が派遣した中学生を泊めてお世話いただいたリチャード・ブーゼリー氏が団長となり、サンタバーバラ市から約30人が鳥羽市を訪問いたしました。一行は10月1日に日本に到着。東京、日光、箱根等をまわって、8日松阪駅に近鉄特急で来県。和田金で昼食後、伊勢志摩スカイラインを通過して鳥羽に入り宿泊先の小涌園に入りました。同夜は小涌園で市民歓迎パーティが開催され、鳥

羽市長の歓迎の挨拶の後、サンタバーバラ市を訪れた中学生の片岡弘也君、加藤町子さんも出席して懐かしいブーゼリー氏夫妻に御礼の言葉を述べました。

翌9日は鳥羽湾めぐりの後鳥羽市役所を訪れ、市長からおなじみの紺の法被を贈られました。

昼食は鳥羽国際ホテルで市長主催の招宴が行われ、楽しいひと時を過ごした後、伊勢神宮を参拝いたしました。

10日は御木本真珠島で自由行動しました。

11日9時の宇治山田発の近鉄特急で奈良へ向かいました。

1969年(昭和44年)2月広報とばより

トーマス・ハンナさん夫妻から当時愛知県立大学外語学科3年の大木充さん(20歳)に礼状が届いたと連絡がありました。

トーマス・ハンナさん夫妻は二度目の鳥羽訪問で大の日本びいきで、小涌園で開かれた市民歓迎会では奥さんが鮮やかな日本語で「さくらさくら」を歌われました。彼らは退職後悠々自適の生活をされ、鳥羽訪問後はアジアの各地を回られたそうです。

大木さんは鳥羽市教育委員会委員長の大木辰吉氏の三男で、これは昨秋サンタバーバラ市から鳥羽市を訪れた親善使節団の鳥羽滞在中、通訳を勤め親身になってお世話をいたしました。そんなことから、大木さんの語学力と苦勞に感謝し、「日本が東洋における私達が最も気に入った国で、…もちろん鳥羽はその中でも最も素晴らしいところです。美しい鳥羽を訪問中に、あなたのような“若いペンパル”を得られたことはうれしいことです」と礼状は結ばれていました。

1969年(昭和44年)2月

太平洋をヨットで横断する「チタ3世」の艦長・吉田弘明さんが、2月27日愛知県衣浦港から出港する際、鳥羽市長からサンタバーバラ市長宛のメッセージを託した。